

セルゲイ・プロコフィエフ 生誕 135 周年 (3) バレエ・リュス作品『放蕩息子』

会期／2026年9月15日(火)～12月9日(水)

(※休館日はwebでご確認ください)

企画・構成／関典子(薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター)

2026 年は、20 世紀を代表する作曲家セルゲイ・プロコフィエフ(1891.4.23 - 1953.3.5)の生誕 135 周年にあたります。常設展では、プロコフィエフが手掛けたバレエ作品を、シリーズでご紹介します。第3回は、バレエ・リュス最後の作品、『放蕩息子』(1929)。聖書の寓話を基に、音楽・美術・振付の結合と衝突によって生まれた、バレエ・リュスの終幕を飾る濃密な作品世界を、どうぞお楽しみください。

セルゲイ・プロコフィエフ (Sergei Prokofiev 1891-1953)



ロシアの作曲家。ウクライナで幼少期を過ごした後、母に見出され13歳でサンクトペテルブルク音楽院に入学、アナトーリ・リャードフ、ニコライ・リムスキー＝コルサコフらに師事。1914年に渡欧、イーゴリ・ストラヴィンスキー、モーリス・ラヴェルらの作品に接する。バレエ・リュス団長セルゲイ・ディアギレフに『ピアノ協奏曲第2番』(1912-13)を認められ、自身初のバレエ音楽『アラとロリー』(1914-15)を作曲するが、バレエ・リュス作品としては採用されなかった(1927年、マックス・テルピスがベルリン歌劇場で上演)。

ディアギレフはプロコフィエフを「第二の息子」(「第一の息子」はストラヴィンスキー)と呼んだとされ、『道化師』(1921)、『鋼鉄の踊り』(1927)、そしてバレエ・リュス最後の作品『放蕩息子』(1929)など、後期バレエ・リュスを代表する作品が生み出された。プロコフィエフはその後も、『ロミオとジュリエット』(1938)、『シンデレラ』(1945)、『石の花』(1954)など数々のバレエ音楽を発表。ストラヴィンスキーと並ぶ、20世紀最大のバレエ作曲家として位置づけられる。

『放蕩息子』(1929) 全1幕2場のバレエ

【初演】1929年5月21日、サラ・ベルナール劇場(パリ)
【音楽・指揮】セルゲイ・プロコフィエフ
【台本】ボリス・コフノ(『ルカによる福音書』に基づく)
【振付】ジョージ・バランシン
【美術・衣裳】ジョルジュ・ルオー
【出演】セルジュ・リファール、フェリア・ドゥブロフスカ他

『鋼鉄の踊り』(1927)の成功を受け、ディアギレフはプロコフィエフに新たなバレエ音楽を依頼する。前作とは対照的なシンプルでわかりやすい作品を求めていたが、題材がなかなか決まらない。そこでコフノが提案したのが、新約聖書の『放蕩息子』だった。父のもとを飛び出した若者が、異郷で酒と享楽にふけり、妖艶なセイレーンに誘惑されてすべてを失い、悔い改めて父のもとへ帰る物語である。

振付は当時25歳のバランシン、美術はルオーが手掛けた。しかし制作過程では、プロコフィエフが振付に不満を示すなど、それぞれの芸術観はしばしば衝突した。標題役を踊ったのはリファール。彼を誘惑するセイレーン(ドゥブロフスカ)との踊りは、あまりにエロティックであったという。リファールは、自分こそ『放蕩息子』であり、父＝ディアギレフのもとへ帰っていくのだと、役に自らを重ねた。バランシンは、それよりステップを間違えるな、と返したという。

初演は大きな喝采をもって迎えられた。しかし初演から約3か月後の8月19日、ディアギレフはヴェネツィアで急逝し、バレエ・リュスは解散する。同時代の才能を結集させるディアギレフの手腕が遺憾なく発揮された『放蕩息子』は、凶らずも、バレエ・リュスの最後を飾る作品となった。——『放蕩息子』は20世紀バレエの最高傑作のひとつとして、大きな評価を得ている。ルオーの美術が素晴らしく、プロコフィエフの音楽も、ソ連へ帰ってからの単調さが嘘のように生き生きと躍動している。物語の組立、群舞の扱い、パ・ド・ドゥ、すべて驚くほど新鮮で現代的(中略)家出の情景——何と酒壺とラッパを持って家出する——、異国の住人——頭は丸坊主で、イモムシのように大勢つながって歩く——、家の柵、宴会のテーブル、悪者たちの乗って逃げる帆かけ船に変化していく舞台の置きものなど、コフノの鋭いひらめきの結実であった。——(薄井憲二『バレエ：誕生から現代までの歴史』音楽之友社/1999/pp.139-140)

主な出展資料

- ◆ PH-D-070-01ws 写真(サイン入り) / フェリア・ドゥブロフスカ / サインは1937年：ロンドン
- ◆ SB-08ws スクラップブック / アントン・ドーリン&イリーナ・パロノワ / ロバート・スチュワート・シェリフス画 / 雑誌『ザ・スケッチ』 / 1939年6月28日
- ◆ PRBROF-19 バレエ・リュス公式プログラム / 1921年5月 / ゲテ・リリック劇場 (アンリ・マティス画 セルゲイ・プロコフィエフ肖像画)



- ◆ 参考映像：セイレーンと放蕩息子のパ・ド・ドゥ

https://youtu.be/vAvOMZXOZh0?si=Fxg14lu_wzR4E_KY



兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22

tel: 0798-68-0223 fax: 0798-68-0212

※ 禁無断転載・複製・引用